

中国語の“果然”と「意外性」を表す語句との共起について
—「前提」という観点から—

On the Collocation of *Guoran* and Phrases Expressing Mirativity in Chinese:
From the Viewpoint of Presupposition

孟 醒

MENG, Xing

摘要

Chinese modal adverb “guoran” is an expectation marker, while “jing (ran)” is a counter-expectation marker. The two markers normally do not exist in one sentence simultaneously. However, previous studies mentioned the collocation of “guoran” and “jing” without analyzing the reason and the function. Through researching the corpus, we found that the collocation of “guoran” and the phrases expressing mirativity such as “jingran” is not unusual.

This paper examines the collocation of “guoran” and the phrases expressing mirativity. Firstly, we focus on the meaning of “guoran”. Sentences using “guoran” usually include experiences like hearsay, prediction based on experiences, results that corresponds with the prediction and the continuation of the result. “Guoran” may respond to experiences such as hearsay or the speaker’s prediction. Moreover, the semantic feature of “guoran” is [+ confirmation], does not collide with the meaning of mirativity. Thus this is the cause of the collocation of “guoran” and phrases expressing mirativity.

Every sentence has a presupposition. This paper analyzes the collocation of “guoran” and phrases expressing mirativity from the perspective of presupposition. When “guoran” collocates with phrases expressing mirativity, the presupposition should be a prediction related to the result. We found that when the collocation exists in a certain sentence, there are two types of situations: the result does not correspond with the prediction of the speaker and the result corresponds with the prediction of the speaker. When the result does not correspond with the speaker’s predictions, we can see the prediction of a third party that corresponds with the result, and the prediction of the speaker which conflicts with the result. In this regard, the degree of the mirativity decreases. On the other hand, when the result corresponds with the speaker’s predictions, the prediction of the speaker is inauthentic. In this regard, the result tends to exceed the prediction of the speaker.

キーワード： “果然” 意外性 共起 前提 予想

Keywords: “*guoran*” mirativity collocation presupposition prediction

1. はじめに

現代中国語における語気副詞“果然”⁽¹⁾は典型的な予期のマーカー (expectation marker) とされており (李冰 2009、谷峰 2014 など)、「言ったこと・予想したことと一致している」というモダリティの意味を有する。

(1) 听说这部电影很好, 看了之后果然不错。(《现代汉语八百词》p.244)

[この映画はいいと聞いたが、見たらやっぱりよかった。]⁽²⁾

一方、“竟(然)”は典型的な反予期のマーカー (counter-expectation marker) として挙げられており (谷峰 2014、陈振宇・杜克华 2015 など)、話し手の「意外性」を表す表現である。

(2) 听说这部电影很好, 看了之后竟然很无聊。

[この映画は素晴らしいと聞いたが、見たらなんと内容がつまらなかった。]

“果然”と“竟(然)”は認識の意味が相反する語として、共に現れることはないはずであるが、刘冬 (2008: 41) では次の例が挙げられている。

(3) 梅若涵只觉心中酸痛, 缓缓睁开眼, 竟然看到燕衔香小小的被烟熏黑了的脸, 后面叠着一张白玉堂的大大的被熏黑的笑脸。(刘冬 2008: 41)

[梅若涵は胸が苦しくて痛いと感じ、ゆっくりと目を開けた。すると、目の前になんと、本当に燕衔香の煙で黒くいぶされた小さい顔と、その後ろに重なるように、同じく黒くいぶされた白玉堂の大きな笑顔があった。]

刘冬 (2008) は両語ともに文にとって必要不可欠な要素であると指摘しているものの、意味上において矛盾しているような二語がなぜ併用できるかについては解釈されていない。さらには、反予期のマーカーとして、“没想到”“不料”“谁知”([思いがけなく])なども挙げられるが、BCC、CCL コーパスを利用して調査した結果、このように意味的に衝突しながらも併用されている例文が他にも存在することが明らかになった。

(4) 昨晚上巴总管提起你来我还不信, 没想到果然是你。(孤独红《血海飘香》 BCC)

[昨夜巴管理官があなたの話をされていて、私は信じていなかったけど、なんと本当にあなたのことだったのか。]

(5) 叶菁菁……对她知道的不多, 但可以想得到她辅佐闵副教主训练杀手, 自然绝非泛泛之辈。

此刻一动上手, 谁知果然是个劲敌。(东方玉《新月美人刀》 BCC)

[葉菁菁は…彼女に関して多くは知らない。だが、閔副教主を補佐し、殺し屋を訓練していることから、絶対に只者ではないと葉菁菁は思った。今手を出してみたら、なんと、やはり強敵だった。]

本稿では、“果然”が用いられている文の意味構造に着目し、“果然”自身の意味素性を考え

ながら、“果然”が“竟”“没想到”のような「意外性」を表す語句と共起できる理由を明らかにした上で、両者が共起する際、結果が「意外性」のあるものなのか、「予期」に一致するものなのかについて考察を行う。

2. “果然”の意味解析

2. 1. 文脈解析

“果然”は一単語で文として成立しうるものの⁽³⁾、他の文成分とともに現れる場合が多い。刘冬（2008：40）は、“果然”が使用されている文を文脈を通して見ると、以下4つの意味的要素に分けられると説明している。

- A. 伝聞や経験などの事実の存在
- B. 伝聞や経験に基づいた予想
- C. 予想と一致している現実である結果
- D. 予測した結果の後続または結果に対する評価

換言すれば、“果然”が使用される文は上述した ABCD4つの部分から構成されており、その中では、“果然”は構成要素 C の部分に該当する。

- (6) 在几年的工作经验里，他累积了对 IBM 足够的认识【A:経験】，他认为开发出来 IBM 一定会大量采购【B:予想】。果然开发出来后，需求应接不暇【C:結果】，营业额和利润都呈倍数增长【D:後続】。（《谁是最好的管理者》 CCL）

[数年間働いた経験で、彼は IBM に対して十分な知識を積み重ねてきた。（これを）開発したら IBM はきっと大量に買い付けると彼は思った。彼の思惑通り、開発した後に、応対する暇がないくらいの注文があり、売上と利益は倍増している。]

以上例(6)は、4つの意味的要素がすべて文中に現れる例である。そして、“果然”が単独で使用される例を除外し、コーパスを考察した結果、刘冬（2008）が指摘しているように、4つの意味的要素以外は見つからなかった。

また、実際の運用において、意味的要素の位置の変更はしばしば起こる。さらに、できるだけ効率的に情報を伝えるという目的、換言すれば言葉の経済性を重視するが故に、コーパスを考察した結果、4つの意味的要素が一斉に現れる例は限られており、その中の一つか二つのみ現れる場合も少なくない。

- (7) 在来这儿的路上，我就听词作者给我介绍，他的要价一般在3万元左右【A】。果然，他开口的价码就是3万【C】。我觉得有些高，跟他讨价还价，最后把这首曲子的价格压到了1.5万【D】。（《中国北漂艺人生存实录》 CCL）

[来る途中で作詞家から聞いたが、彼の作曲料は3万元ぐらいだそうだ。やっぱり、彼はすぐに3万元を要求してきた。ちょっと高いと思って、値段を交渉し、最終的にはこの曲の値段を1.5万に抑えた。]

- (8) 林达夫却不这么认为,他看到埃尔切的制鞋工厂有六成都倒闭了,工人失业率增长了 30%,所到之处,当地人都用怨恨的眼光盯着忙碌而得意的中国商人【A】。在归国的飞机上,这位老鞋匠对老板说,“我预感迟早要出事。”【B】几个月后,果然出事了【C】。

(吴晓波《激荡三十年—中国企业史 1978—2008》 CCL)

[林達夫はそう思わない。エルチェの靴工場の 6 割が倒産し、労働者の失業率が 30%増加して、至る所で、地元の人が憎悪に満ちた目で、忙しさに満足気な中国商人を睨んでいるのを彼は目にしていた。帰国の飛行機でこの熟練した靴屋さんは経営者に「遅かれ早かれ事故が起きるといふ予感がする」と言った。数か月後、果たして事故が起きたのだ。]

- (9) 记得那个梦里有九只鸡【A】,你家就果然养了九只鸡【C】,那梦里是六七只鸭【A】,你家果然就养了六七只鸭【C】;梦里那姑娘小我三岁【A】,果然我是二十岁,你是十七岁【C】……(阎连科《受活》 BCC)

[夢の中で鶏が 9 羽いると覚えていたが、君の家はやっぱり 9 羽の鶏を飼っている。その夢ではアヒルが 6、7羽いて、君の家もやっぱり 6、7羽のアヒルを飼っている。夢の中ではその娘は私より 3 歳下だったが、やっぱり僕が 20 歳で、君は 17 歳だ。]

- (10) 杨华看了他的手说:“你的手长 20.1 厘米,穿 27 厘米的鞋”,接着从兜里掏出一把尺测量【B】,果然一毫都不差【C】,这位顾客心服口服【D】。(《1994 年人民日报》 CCL)

[楊華は彼の手を見て、「あなたは手は 20.1 センチで、27 センチの靴を履いているわね」と言った。そしてポケットの中からメジャーを取り出し測ってみると、果たして 1 ミリの誤差もなかった。この客は敬服した。]

以上いずれの文においても、“果然”を用いる C の部分が文の中心となり、不可欠な部分である。実際の運用では、C の部分しか現れない文も少なからず存在している。また、ABD のような意味的要素は必ずしもすべて同時に使用されるわけではなく、それらは文中に現れなくても文の理解には支障がない。なぜなら、“果然”一語の使用を通して、話し手の出来事の経緯に対する認識が見られるからである。さらに、“果然”を使用する背景として、伝聞・経験の事実の存在及び話し手の予想を想定しうる。例えば、例(11)の場合、話し手である“他”は今までの経験や、会話をするときの相手の反応などの非言語行為から情報を活用し、“果然”を使用したと考えられる。例(11)’のように、結論を導き出す流れが想定できる。

- (11) 她被他观得心里发毛,想了想,最后还是摇头,“好吧,那别说了。”

“果然女人心最善变。”他嘲笑道。(江流水《风月情妇》 BCC)

[彼女は彼に睨まれて怯えて、すこし考えて、やはり首を振った。「まあいいわ、言うのをやめましょう。』

「やっぱり女心は最も変わりやすいね。」と彼は嘲笑った。]

- (11)’ 听说女人心最善变【A】。看到你现在的样子【A】,果然女人心最善变【C】。

このように、ABD といった意味的要素が縮約される場合、“果然”を取り除くと伝達しようとする情報が不足してしまう。同様に、「意外性」を表す語句と共起する際に、“果然”は削除することができない。この点については、第3節で詳述する。

2. 2. “果然”が呼応する意味的要素

“果然”が使用される際に、それ以前の伝聞や経験などの事実である A またはそれに基づいて立てられた予想 B という背景知識が復元できるはずであるが、“果然”がどの部分に呼応しているかについて、以下の例を分析する。

- (12) 他送完学生返回天就黑了，路过一个田垅，明明看见一个人在前面走着，还叼着一只烟头，火花一闪一闪的，他走快几步想撵个伴，到近处，他一拍那人的肩头，觉得特别冰凉【A】，像块石头【B】，他仔细一打量，果然是块石头【C】，不仅是块石头，还是块墓碑【D】。（刘醒龙《凤凰琴》 CCL）

[生徒を見送った後、彼が帰る頃にはあたりは既に暗くなっていた。畔を通りかかったとき、タバコをくわえた人が前を歩いているのを見かけ、そのタバコの火が灯っているのを目にした。彼は付き添おうと思って早足にその人を追いかけた。近くに寄って、その人の肩を叩くと、ひんやりしていて、石のようだと感じた。よく見ると、やはり石だった。しかもただの石ではなく、墓石だったのだ。]

ここでは、A の部分までは“人”のように見えるという経験が紹介され、B の部分では“石头”だという予想を出し、“果然”に後続する結果（“墓碑”）は A（“人”）ではなく、B（“石头”）に呼応している。つまり、予想である B が現れれば、経験（A）—予想（B）—結果（C）という順であり、“果然”は予想の部分に呼応する。無論、ここでの“果然”はまさに「予想通り」という意味で用いられている。

それに対し、予想 B の部分が現れない場合、“果然”は A に呼応するのか、隠されている B に呼応するのかについて、以下 2 例で考察を試みる。

- (13) 他蹒跚地哼唧着什么走进来，一见到道静就喊道：“林先生，糟啦！日本人占了东三省！”【A】道静吃惊地一把抢过报纸来。果然，赫然大字载着日军占领沈阳和东北各地的消息【C】。（杨沫《青春之歌》 CCL）

[彼は何か口ずさみながらふらふらと入ってきて、道静を見たとき「林さん、大変だ。日本人が東三省を占領した！」と叫んだ。道静は驚いて、あわてて新聞をとってきた。彼の言った通り、日本軍が瀋陽と東北各地を占領したと大きな字で書かれている。]

- (14) 暖暖故意没脱制服,她要让他看看自己穿制服的模样【A】。果然,开田看见她呆了一刹【C】,然后走过来悄声在她耳边说:我以为是谁家的姑娘走错门了,原来是我的老婆【D】!
(周大新《湖光山色》 BCC)

[暖暖はわざとユニフォームを脱がず、夫に自分のユニフォーム姿を見せたいと思った。]

思った通り、開田が彼女を見て、一瞬ぽかんとした。そして、彼女に近づいて、ひそかに言った。「どこかのお姉さんが家を間違えたかと思ったが、うちの嫁だった。」

以上2例のいずれにも、予想Bの部分は明確に現れないものの、例(11)の場合、“果然”に後続する内容を補足すると、“果然(和他说的一样)”である。前方に“吃惊”があったため、“果然”によって導かれた結果は道静の予想外の内容であることが明白となっている。つまり、“果然”は前方Aの部分に呼応しており、この場合、“果然”は「予想した通り」という意味には取りにくい。それに対し、例(14)の場合、予想の部分は明示されていないが、潜在的な予想が文脈に隠されおり、情報を補充することが可能である(下線部で示す)。ここでの“果然”は隠されている予想Bの部分に呼応して、「予想通り」という意味になる。

(14) 暖暖故意没脱制服,她要让他看看自己穿制服的模样【A】。她觉得他看了以后一定会大吃一惊【B】。果然(和她想的一样),开田看见她呆了一刹【C】,然后走过来悄声在她耳边说:我以为是哪家的小姑娘走错门了,原来是我的老婆【D】!

2. 3. “果然”の意味素性

上述のように、“果然”は「予想通り」と訳せるパターンもあれば、そのようには訳しがたいパターンもある。そのため、“果然”の意味を究明するとき、意味素性(semantic feature)という観点から検討を加える必要があると言える。姚尧(2016:86)が指摘する通り、語気副詞“果然”は動詞“果”[実現する]によって文法化されてきたものであるがゆえに、[+結果]という意味素性を有する。加えて、その意味素性は結果の真実性にも関わっていると考えられる。

(15) 当年台北的三分局,某次接到民众检举,指称圆山饭店有“违章建筑”,要警方派人去“看看”,结果,果然发现在圆山附近有间违章的车棚。(《作家文摘》 CCL)

[当時台北の三分局は民衆から通報を受け、圓山ホテルに「違法建築物」があるので、現場に人を派遣して見てほしいと警察に要求した。その結果、やっぱり円山の近くで違法なカーポートを見つけた。]

例(15)では、“果然”に後続する内容は客観的な既成事実であり、先行する情報の真実性は“果然”によって「確かにその通りだ」と確認されている。ここでの“果然”は“真的”に変換可能だと考えられる。つまり、“果然”は[+確認]という意味素性を持っている。この点は、以下の疑問文からも確認することができる。

(16) 伊阿古:这一支歌是我在英国学来的。英国人的酒量才厉害呢;什么丹麦人、德国人、大肚子的荷兰人喝起酒来,比起英国人来都算不了什么。

凯西奥:英国人果然这样善于喝酒吗? (《奥瑟罗》 CCL)

[イアゴ:この歌はイギリスで学んだ。イギリス人こそお酒に強いんだ。デンマーク人や、ドイツ人、腹の出たオランダ人なんかは酒を飲むことに関して、イギリス人と比べたら全然だめだ。]

キャシオ：イギリス人は本当にそこまで強いのか？]

(17) 马家军的成绩与他们喝了这种或那种饮料果然有那么密切的关系吗？

(《1994 年报刊精选》 CCL)

[馬家軍の成績は彼らがこのドリンクを飲んだことと本当にそんなに密接な関係があるのか？]

以上 2 例において、“果然”は疑問表現“吗”と共起しており、話し手の予想にかかわらず、相手から得た情報の真実性を確認している。無論、この場合、“果然”は「予想通り」という意味にはならない。もともと“果然”は[+確認]の意味素性を有し、先行する情報の真実性を確認する機能があるが、そのほとんどは陳述文の中で使われており、かつその文脈には「予想」が含まれるパターンが多いため、“果然”は[+確認]の意味素性から「予想通り」という意味へ通時的に変化してきた。この現象はいわゆる文脈的意味吸収 (absorption of context) と呼ばれるが、この点については、別途検討する必要がある。

要するに、“果然”の意味素性は[+結果][+確認]であり、特に「予想」と関係することがないため、“竟”“没想到”といった「意外性」を表すものと意味的には矛盾が生じることなく、共起しうるのである。

3. 前提と結果

“果然”と“竟然”は語の意味が相反するとともに、“果然”と“竟然”が使われるそれぞれの文から推定できる情報も異なる。文から推定できる情報として、前提 (presupposition) がある。前提とは、ある物事が成り立つためにあらかじめ満たされていなければならない条件のことである。前提は、意味論的前提 (semantic presupposition) と語用論的前提 (pragmatic presupposition) に大きく分けられる。Levinson (1990 : 215) によると、文 A が別の文 B を意味論的に前提とするのは、次の条件のもとにおいてのみである。(a) A が真であるあらゆる状況で、B が真である。(b) A が偽であるあらゆる状況で、B が真である。また、語用論的前提について、Levinson (1990 : 255) は、「発話 A は、B が会話参加者の間でお互いに知られている (mutually known) 時にのみ A が適切である (appropriate) といえる場合、そしてその場合に限り、命題 B を語用論的に前提する (pragmatically presupposes)」と説明している。また、前提を引き起こす表現は前提トリガー (presupposition-trigger) であると指摘している。“果然”と“竟然”は前提トリガーであり、それぞれにおける語用論的前提は以下の通りである。

(18) a. 老王果然是坏人。 [王さんはやっぱり悪い人だ。]

>> 我猜老王是坏人。 [王さんは悪い人だと思った。]

b. 老王竟然是坏人。 [王さんは意外と悪い人だ。]

>> 我猜老王是好人。 [彼はいい人だと思った。]

(18a) (18b) はいずれも“老王是坏人”という結果であるが、それぞれに“果然”“竟然”が使われているため、それぞれ想定しうる前提は異なることになる。上で挙げた(18a)の前提は“老王是坏人”という予想の存在であるのに対し、(18b)の場合、結果とは正反対の“老王是好人”という予想があらかじめ存在する。つまり、(18a)において、結果は予想と一致するのに対し、(18b)では結果は予想とは不一致となる。しかしながら、2.3で述べたように、“果然”の使用は必ずしも「予想」に関わるわけではない。(18a)の前提は“小张说老王是坏人”[李さんが悪い人だと張さんは言った]という事実が存在する可能性もある。では、下記例(19)のように、“竟”と“果然”が共に現れる場合、その前提は何か、「予想」は必ず存在するのか、また結果はその「予想」と一致するか否かについて本節で考察を試みる。

(19) 老王竟果然是坏人。

[なんと、王さんはやっぱり悪い人だ。]

3. 1. 予想の存在

「意外性」を表す語句と“果然”が共起する文の前提を考察するとき、その前提はしばしば文脈に含まれているため、単独の文より文脈を利用したほうが、その前提を判断しやすい。以下、前提が文脈の中に明確に示されている用例を示す。

(20) 那伙计笑道：“上个月我算了个命，看相的王瞎子说我今年会走偏财运，会发一百两金子的横财，我起初以为他胡说，哪知道今天财神爷果然来照顾了……”

(古龙《圆月弯刀》 BCC)

[「先月占いに行ったとき、手相をみる盲目の王に今年偏財運が巡っているから、意外なところで金貨 100 両を手に入れるだろう、と言われた。最初はデタラメだと思ったけど、なんと、今日、言われた通り、財神のご加護があった…」とその給仕は笑って言った。]

(21) 一直听说要想减肥，就练郑多燕的减肥操。开始以为会是假的，没想到果然很有用。

(微博 BCC)

[ダイエットしたいならチョンダヨン(韓国のダイエット作家)のダイエット体操をしたほうがいとずっと前から聞いている。はじめは嘘だと思っていたが、なんと本当に効果があった。]

例(20)(21)では、“哪知道”“没想到”と“果然”が共起している箇所前方に、“以为他胡说”“以为会是假的”といった記述があり、ここに話し手の「予想」が反映されている。さらに、“以为”は元の判断が実際の状況に合わない場合でしか使われない。つまり、“以为”によって、話し手の予想と結果との対立が明示されているのである。

一方、以下の例では話し手の予想は結果と一致している。

(22) 以利安慰她说：“你放心地回去吧，耶和华会赐福与你，你将**有求必应**。”哈拿满意地

回到家里，与丈夫同床，没想到果然怀孕了。（《圣经故事》 CCL）

[エリは彼女を慰めた。「安心して行きなさい。ヤハウエ様があなたに幸福を授けます。あなたが願い求めることは必ず叶えられるのです。」ハンナは満足して家に帰って夫と寝たら、なんと本当に身ごもった。]

(23) 女孩登记结婚，工作人员察觉不对劲问是否自愿，谁知果然意外发生。

(<https://v.qq.com/x/page/k3044hqepia.html>)

[女性は婚姻登記に来たが、担当者は異変に気づき、本当にこの婚姻を自ら願っているのかと聞くと、なんと本当に不測の事態が起こった。]

例 (22) (23) において、「予想」は明確には書かれていないが、例 (22) では、主人公ハンナの状態が“满意地”という表現で描写されているため、ハンナを満足させたのは「これから妊娠する」という予想があったからだと考えられる。例 (23) では、結果の“意外发生”は、先行文脈にある“工作人员察觉不对劲”と一致している。

結果が予想と一致するかどうかにかかわらず、“果然”は「意外性を表す」語句と同時に現れる際、その前提には必ず結果に関わる「予想」が存在する。以下、結果が予想と不一致であるパターンと、一致するパターンに分けて、話し手の認識の相違を考察する。

3. 2. 結果が予想と一致しないパターン

本節では、“果然”と「意外性」を表す語句が共に導き出す結果が予想と一致していない場合について考察する。

(24) “那云层不一会儿就飘到我们上空，至多再有一盏茶的时间，就该下雨了！”石继志顺着老人手指处一望，只觉得远远有几片黑云，却决不相信就会飘过来……谁知果然不一会儿，风起云聚……（萧逸《七禽掌》 BCC）

[「あの霧雲はじきに私たちの上空に流れてくる。お茶を1杯飲んでいるうちに、雨が降るぞ。」と老人は言った。石継志は老人の指差す方向を見て、黒い雲がいくつか遠くにあるとしか思えず、すぐに流れてくるとは絶対に信じなかった…思いがけないことに、老人の言った通り、しばらく経ったら風が立ち始め、雲が集まってきた…]

(25) 小弟不知救余兄的异人是冉老侠，虽知人已脱险，痊愈决非容易，哪知天明起身，便听人报余兄已愈，还不信如此快法，不料果然。（还珠楼《万里孤侠》 BCC）

[弟は余兄貴を救ったのが冉侠客とは知らず、ただ余兄貴は死を乗り越えたと聞いてはいたが、全治は容易ではないと思っていた。意外にも、翌日起きたら、余兄貴はすでに全快したとの報告を受けた。こんなにも早いのかと信じなかったが、意外にもその通りだった。]

この2例からは、第三者からの情報および話し手のそれに対する認識（予想）が読み取れる。さらに、“不信”“不相信”という表現から話し手の認識が先行情報とは反することが分かる。

例えば(24)では、まず第三者(老人)が「じきに雨が降る」と予言したが、主人公(石継志)はその予言に対して不信感を示している。しかし、“不一会儿，风起云聚”という結果から見れば、第三者の予言が当たり、主人公の予想は外れたことになる。主人公の立場から言えば、結果という事態は完全に「反予想」だと考えられる。

次の2例では、話し手の「予想」を直接反映する語句は見られないものの、“竟”を削除する操作を通して、話し手の「予想」の存在を確認することができる。

- (26) 小莫暗暗告诉我，我又被“出卖”了一次，那位党员同学竟向工宣队汇报，说我要与他达成一笔“交易”——我请他帮我解决组织问题，以帮他修改文章为报答……又过了几天，那党员同学，竟果然拿了一篇什么文章请我帮忙润色文字。

(梁晓声《我的大学》 BCC)

[また「裏切られた」んだよ、と小莫はこっそりと私に告げた。その党員の同級生はなんと私が彼と「取引」を成立させようとしていると工宣隊に報告したのだ。彼の文章を修正するのと引き換えに、彼が私の組織の問題を解決してくれるのだと…数日後、その党員の同級生はなんと本当に何かの文章を持ってきて潤色を加えることを願いでてきた。]

- (27) 他又想起他们曾经一起去请一位高人算过一次命，说他们两人八字一配，他就要漂洋过海，还说他们两个聚少离多，现在竟果然——应验。(1994年报刊精选 CCL)

[彼らが一緒にすごい人のところに占いに行ったことも彼は思い出した。その人は彼ら二人が一緒になると、彼は故郷を離れることになってしまうことと、二人が一緒にいる時間より離れている時間の方が多いと言った。今なんと、本当に全部当たっているのだ。]

例(26)(27)において、結果の部分に使われる“竟”を削除しても、文は問題なく成立するものの、意味上の「意外性」がなくなってしまうという点から見れば、この結果は主人公自身にとって「予想外」なのである。言い換えれば、結果と反する主人公の予想が文脈に隠されている。

主人公の予想が結果にそぐわないのであれば、“竟”のような意外性を表すものだけを除いて、“果然”を消すことは可能であろうか。先の例(26)を用いて分析する。

- (26) ’ *小莫暗暗告诉我，我又被“出卖”了一次，那位党员同学竟向工宣队汇报，说我要与他达成一笔“交易”——我请他帮我解决组织问题，以帮他修改文章为报答。……又过了几天，那党员同学，竟拿了一篇什么文章请我帮忙润色文字。

例(26) ’のように“果然”を削除した場合でも文法的には成立しうるものの、違和感が生じてしまう。それは“拿了一篇什么文章请我帮忙润色文字”という結果に対して、“我”がすでに“帮他修改文章”という結果に関連のある情報を把握しているからである。次の例(26a)のように、第三者からの情報部分を結果と無関係な“帮他参加会议”に変更すると、話し手は結果の事態を完全に把握していないため、“竟”と“果然”が共起することはないのである。同

様に、例(26b)のように、話し手が把握している情報と異なる結果になった場合、“竟”と“果然”を同時に用いることは不自然である。

(26) a.*小莫暗暗告诉我，我又被“出卖”了一次，那位党员同学竟向工宣队汇报，说我要与他达成一笔“交易”——我请他帮我解决组织问题，以帮他参加会议为报答。……又过了几天，那党员同学，竟果然拿了一篇什么文章请我帮忙润色文字。（→竟拿了一篇什么文章请我帮忙润色文字。）

b.*小莫暗暗告诉我，我又被“出卖”了一次，那位党员同学竟向工宣队汇报，说我要与他达成一笔“交易”——我请他帮我解决组织问题，以帮他修改文章为报答。……又过了几天，那党员同学，竟果然让我帮他参加会议。（→竟让我帮他参加会议。）

また、陈小荷(1994:18)では“主观量是含有主观评价意义的量，与‘客观量’相对立。主观量表达的是说话人对量的大小的主观评价。”[主観量とは主観的評価義を含む量であり、「客観量」と対立するものである。主観量が表すのは量の度合いに対する話し手の主観的な評価である。]と指摘されている。以下例(28)では“竟然”を例にして、主観量と客観量の関係を見てみる。

(28) a.他买了三个包。 [彼はカバンを3つ買った。]

b.他竟然买了三个包。 [彼はカバンを3つも買った。]

例(28a)では、「3つ」は現実と一致する客観的な数量表現である。それに対して、例(28b)では、“竟然”により、客観的な数量が述べられているとともに、「3つが多い」という話し手の主観的な評価も表現されている。つまり、“竟然”は主観量表現のマーカであり、期待値と現実数量の差が“竟然”によって反映される。本研究でいう「量」は数量詞による数量表現ではなく、話し手の事態に対する把握の程度である。

主観量という視点から見れば、“竟”のような「意外性」を表す語は、結果を予想に反する方向に導き、“果然”と共起してから、図1に示すように、意外の量が減量されることになる。具体的に言うと、“果然”のみが使用される場合、結果が完全に予想と一致する。図1で見れば、客観的な事実を「0」の位置とすると、“果然”によって提示された結果の「量」は「a」の位置に当たる。一方、“竟”のような「意外性」を表す語のみが使用される場合、結果が話し手の予想と一致しない。このとき、結果の「量」は図1の「a'」の位置に当たる。しかし、上述したように、“竟”と“果然”が共起する際、話し手が事前に結果の事態に対してある程度把握しているため、結果の「量」は「a'~0」の間に当たり、「意外性」の程度は“竟”だけが使用される場合より減量される。

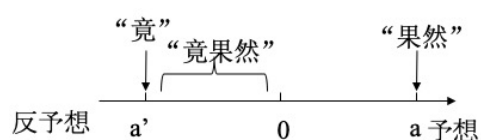


図1 “竟然”の主観量

つまり、結果が話し手（または主人公）の予想と一致しない場合、結果と一致する第三者からの情報及び話し手があらかじめ結果と反対する予想を有することが、“果然”と「意外性」を表す語句の共起条件となる。文全体から見れば、“果然”と「意外性」を表す語句の共起は予想に反する事態を表現するが、両者の共起により、「意外性」の程度は減少するのである。

3. 3. 結果が予想と一致するパターン

本節では結果が予想と一致する例を挙げながら、なぜ「意外性」を表す語句が使われるのか、両者が共起する場合、どのような制限があるのかなどの問題を究明する。

(29) 叶子拿着一根棍子在床底下捞的时候，只是想检查一下床底下会不会藏着什么四旧，没想到果然就捞出了一双皮鞋。（《筑草为城》王旭烽 BCC）

[葉子は棒を持ってベッドの下を探っていたとき、ただ下に何か古いものが隠されているかを確認めたかっただけなのに、本当に革靴を一足探り当てたとは思わなかった。]

(30) 夏莉……那时一直有点感觉到，没想到亚修拉姆这个人果然是卡修国王的敌人。

（《罗德岛战记》 CCL）

[シャリは…そのときなんとなく気がついたが、まさかアシュラムという人が本当にカシュ国王の敵だとは思わなかった。]

上記2例では、主人公の予想は結果と一致すると考えられる。例(29)では、“床底下会不会藏着什么四旧”という記述における“会不会”から、「隠されている可能性がある」という主人公の予想がうかがえる。同様に、例(30)では、“有点感觉到”という文における“有点”からは、「結果に対する予想はついたが、自信がない」という主人公の心理状態が読み取れる。したがって、「意外性」を表す語句が“果然”と共起し、主人公の予想が結果と一致する場合、その予想に対する主人公の確信度が100%ではないことが両者の共起する条件だと考えられる。以下、“果然”のみが使用される例文を用いて説明する。

(31) 蒋介石知道，这个时辰，母亲一定在经堂里念经呢。他径直来到经堂，见母亲果然正在那里诵经。（蒋氏家族全传 CCL）

[蒋介石は知っている。この時、母親は絶対に経蔵で読経している。彼は直接経蔵に来てみると、母親が本当にそこで読経していた。]

(32) 当然也可能赢两局，赢两局就拿下了比赛。那一次马晓春果然以2:1赢了小林光一。

(1998年人民日报 CCL)

[もちろん2セット勝つのも可能だ。2セット勝ったら試合で勝つのだ。そのとき、馬春曉はやっぱり2:1で小林光一に勝った。]

例(31) (32)における予想の部分を見ると、“一定”と“可能”の2種類が見られる。つまり、主人公の予想は確定的なものとは限らない。それぞれの文に“没想到”を挿入すると、

(31) ’ *蒋介石知道，这个时辰，母亲一定在经堂里念经呢。他径直来到经堂，没想到见母亲

果然正在那里诵经。

- (32) '当然也可能赢两局，赢两局就拿下了比赛。没想到那一次马晓春果然以 2:1 赢了小林光一。

例 (31) ' のように主人公が自分の予想に十分な自信を持っていることを表した場合は、非文となってしまう。つまり、例 (32) ' のように、“没想到”と“果然”が共起するとき、その前提にある予想は必ず不確定のものでなければならない。

また、齐沪扬 (2003 : 68) は語気副詞の機能を考察するとき、“果然”は“正向强调”という機能であると指摘している。“正向强调”とは文の語気を強め、話し手の態度を更に際立たせる機能である。加えて、主観量の視点から考えると、“果然”は「意外性」を表す語句と共起するとき、“正向强调”の量が増加すると考えられる。例 (33) を例にすると、図 2 が示すように、主観的評価を表す“谁知”と“果然”を使用しない場合、結果が客観的表現であり、「0」の位置に当たる。“果然”のみが使用される場合、“正向强调”の機能により、結果が「a」の位置に当たる。更に「意外性」を表す“谁知”がともに現れると、「相手が強いのは予想しているが、そこまで強いとは思わなかった」という「予想以上」のニュアンスになる。つまり、“果然”のみが使用されるときよりも主観量が增量することになる。

- (33) 叶菁菁……对她知道的不多，但可以想得到她辅佐闵副教主训练杀手，自然绝非泛泛之辈。此刻一动上手，谁知果然是个劲敌。（例 (5) 再掲）

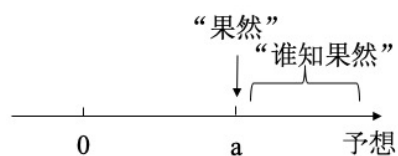


図 2 “谁知果然”の主観量

つまり、結果が話し手（または主人公）の予想と一致する場合、話し手（または主人公）の予想は不確定のものでなければならない。これが“果然”と「意外性」を表す語句が共起する条件となる。また、「予想と合致する」だけでなく、予想を超える結果が常に見られる。

4. おわりに

以上、語気副詞“果然”が“竟”“没想到”といった「意外性」を表す語句と共起する現象について考察した。一般に、“果然”は予期のマーカーとされているが、本稿では“果然”が用いられる文の意味的要素についての分析を踏まえ、意味素性の観点から、“果然”の [+確認] という意味素性が「意外性」と衝突するものではないことを明らかにした。また、両者が共起する際、その前提には結果に関わる「予想」が存在することを究明した上で、結果が予想

と一致しないパターンと一致するパターンに分け、その共起するときの制限と機能について考察した。結果が話し手の予想と一致しない場合、結果と一致する第三者からの情報及び、話し手があらかじめ結果に反する予想がともに存在する。そして、主観量の観点から見ると、「反予想」を表す“竟”だけが使用される場合より、“果然”を用いることで、「意外性」の程度が減少されることになる。一方、結果が話し手の予想と一致する場合には、“竟”“没想到”などによって、結果が「予想」を超える程度に達することが表されるのである。

注

- (1) “果然”は語気副詞と接続詞の品詞としての機能を有しているが、本稿では語気副詞としての“果然”を研究対象とする。
- (2) 本稿で使用する例文の日本語訳は、すべて引用者によるものである。また、出典を記していないものは作例である。
- (3) 陆俭明(1982:27)では、単独で使用できる副詞として、“果然”が挙げられている。
 - a. 气象站昨儿预报说今儿下午有暴雨。你别说还真准!今儿中午饭后不到两袋烟的功夫,嘿,果然!先是起风,不一会儿铜钱大的雨点儿就下来了。
[昨日气象台は、今日の午後激しい雨が降ると予報した。意外なことに、それは本当だった!今日昼ごはんのあと、タバコをしばらく吸う間もなかった。おお、本当に当たったぞ!まずは風が吹いて、まもなく銅貨ほどの大きさの雨が降ってきた。]
本稿ではこのような“果然”が単独で使用される例は考察の対象としない。

主要参考文献

- 陈小荷 1994. <主观量问题初探一兼谈副词“就”、“才”、“都”>, 《世界汉语教学》第4期。
- 陈振宇・杜克华 2015. <意外范畴:关于感叹、疑问、否定之间的语用迁移的研究>, 《当代修辞学》第5期。
- 方梅 2005. <篇章语法与汉语篇章语法研究>, 《中国社会科学》第6期。
- 谷峰 2014. <汉语反预期标记研究述评>, 《汉语学习》第4期。
- 李冰 2009. <“果然”与“果真”的用法考察及对比分析>, 《汉语学习》第4期。
- 刘冬 2008. <“果然”的语义与篇章分析>《现代语文(语言研究)》第2期。
- 陆俭明 1982. <现代汉语副词独用刍议>, 《语言教学与研究》第2期。
- 吕叔湘主编 2013. 《现代汉语八百词》(增订本), 商务印书馆。
- 齐沪扬・胡建锋 2006. <试论负预期量信息标记格式“X是X”>, 《世界汉语教学》第2期。
- 齐沪扬 2002. 《语气词与语气系统》, 安徽教育出版社。
- 齐沪扬 2003. <语气副词的语用功能分析>, 《语言教学与研究》第1期。
- 姚尧 2016. <“果”与“竟”的平行与对立>, 《语言研究》第2期。
- 张晓英 2014. 《语气副词“果然”的多角度分析》, 华中师范大学硕士学位论文。
- 章天明 2010. 《现代汉语语气副词主观性研究》, 大阪大学大学院言語文化研究科博士学位論文。
- Stephen C. Levinson(著), 安井稔・奥田夏子(訳)1990. 『英語語用論』, 研究社出版。